



1.大きな屋根のある重厚なつくりの家屋の外観は昔の面影のまま美しく再生されている。2.玄関からダイニングを見る。ダイニングの横に新たに設けた光の庭によって、玄関、廊下、そしてキッチンが明るく快適な空間となった。3.もとは玄関であった場所を庭に面する大きな開口を設けたりリビングに再生。大きな開口により、庭とリビングとが一体となり、開放感あふれるモダンな空間になっている。

古民家再生 05 大阪府「佐野の家」

# 築130年の家に 快適でモダンな 空間を実現

建築設計 平井憲一

平井憲一建築事務所 06-6614-5622  
写真 平井一圭(建物) 松井ヒロシ(人物)

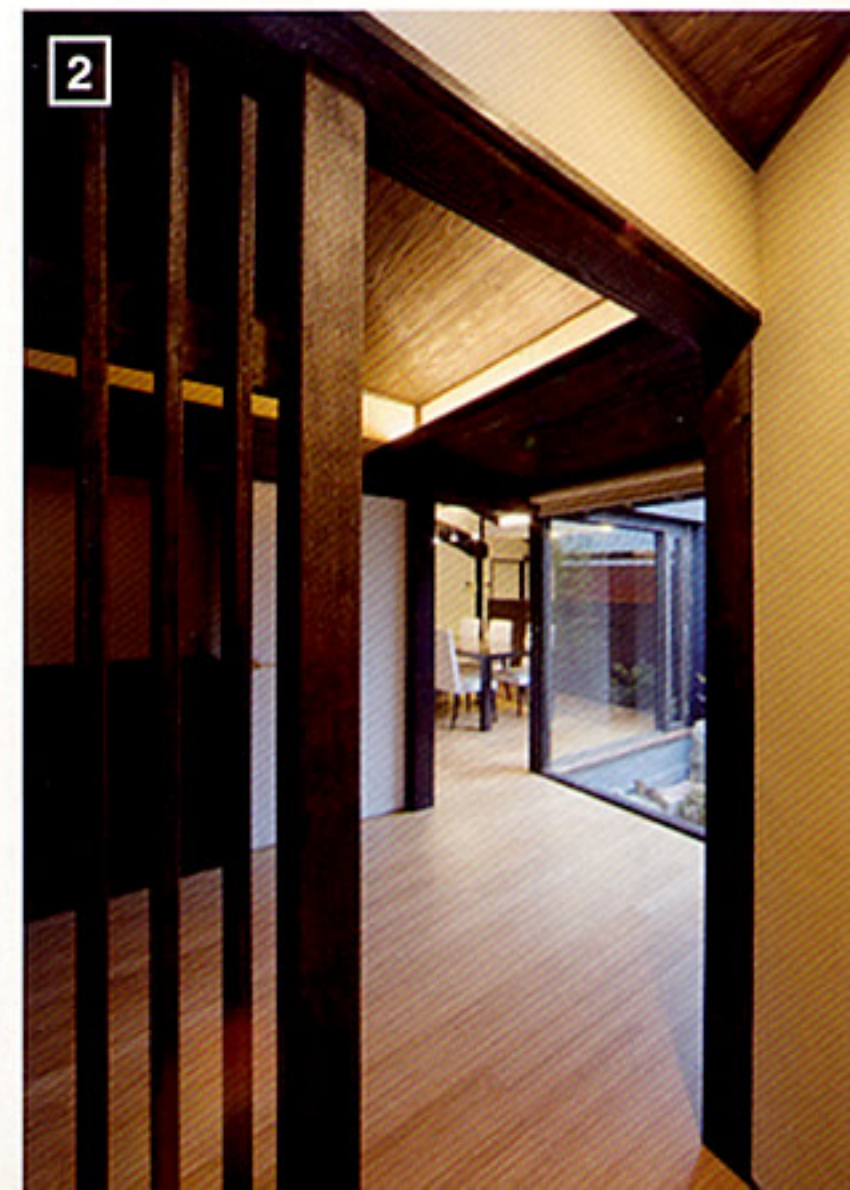
## 築

130年ほどというこの民家は、本葺きの丸瓦の重厚な佇まいの旧家で、これまでに数回の改修を経たものの、現在のライフスタイルには合わないと感じて直すことを検討していたという。しかし、先祖から受け継いだ家を大切にしたいのご主人の要望もあり、建築家・平井憲一さんに再生を依頼することにした。平井さんは、これまでの度重なる改修で日本建築のよさが失われていた家を再現すべく、既存の天井を撤去して梁や柱をあ

らわにし、さらには開口を大きく取る他にトップライトや光庭を新たに設け、明るく開放的な空間を実現した。また、新たな柱や差し鴨居、筋交いなどによる耐震面の補強も施している。外観は昔のままの面影を残しながら、屋根瓦を葺き替えて美しい姿に。「以前は朝起きるとまず電気をつけることからはじめ、冬はとても寒くて大変でした。建て直そうと思っていたんですけど、ここまで再生していただけて、建て直さなくて本当によかった」と奥様は話す。

### 古民家DATA

- 家の年齢 130年
- 家のつくり 農家
- 家の広さ 敷330坪 延71坪
- 改修の形式 現地再生
- 家族構成 大人3人+子供2人







◎実際に住んでみて不便に感じる点はありますか？  
 「今は家のどこに行ってもくつろげるので特に不便に感じることはありません」



◎古民家再生住宅に住もうと思ったのは何故ですか？  
 「建て直すことを考えていましたが、古い建物を大切にしたいという想いもあったので」



◎これから古民家再生をしようとする人達にひとこと  
 「古い建物をつぶしてしまわなくても快適な空間を実現することができます」



◎古民家再生住宅に住んでよかったと思うことは？  
 「まさかこんなに快適な空間に変わるとは。結果的には改修してよかったと思っています」

◎古民家を再利用する住まいづくりは大変でしたか？  
 「仮住まいをしたり、荷物を整理したりするのが大変でしたが、プランはおまかせしていたので…」







古民家の中に  
誕生した  
モダンリビング

古民家再生 大阪府「佐野の家」

4.食器洗浄機も備えたシステムキッチン。キッチン&ダイニングも古材の色と白を基調にモダンなイメージでまとめられている。5.和室は昔のままを保ち、傷んだ部分のみを改修。6.ダイニングからリビングを見る。度重なる改修によって隠れていた梁をあらわし、トップライトを設けた高い天井の開放的な空間となった。7.キッチンから庭を見通す。ダイニングとリビングを仕切る建具はガラスの間に和紙を挟み込んだ平井さんのオリジナルデザイン。これだけの天井高があっても、空気が循環し、わずかな暖房でも暖かく過ごせるという。かつての冷え冷えとした空間とはまるでちがって快適だと建主は話す。8.リビングから和室を見通す。和とモダンな空間が融合している。